

認知症 カフェ 心通わす

介護や支援 情報交換

認知症の人や家族、支援者が毎月1回、気軽に集まって交流するサロン「オレンジカフェすみだ」が今年4月から、墨田区向島の診療所内のスペースで開かれている。認知症対策事業として区がNPO法人に委託して運営しており、認知症の人たち同士が会話を楽しんだり、介護する人たちが情報交換したりすることに役立っている。

墨田に開設 家族ら集う

医院の金子俊之院長が「地域のために活用してほしい」と区に持ちかけた。認知症対策に力を入れている区は、この部屋を認知症の人たちや、その支援をする人たちの交流の場にしよつと、NPO法人「自立支援センターふるさと会」に運営を委託。4月から毎月第4金曜日にカフェが開かれることになった。参加費は無料。集まった

5月27日午後、テナントビル4階の診療所スペース隣にある部屋で、高齢の男女約10人の笑い声が響く。「おい、くつですか?」「ワハハ、忘れちゃったよ」「2歳くらいならわからなくなってもいいみたいですよ」集まったのは認知症の人や、支援する人たち。お茶やコーヒーを飲みながら皆でかるたやおしゃべりなどをし、2時間ほどを過ごした。参加した同区の女性(74)は「色々な人と思いきりおしゃべりができて本当に楽しい」と満足げだ。

カフェが開設されたのは、今年1月にオープンした「とうきょうスカイツリー駅前内科」の一室。使わない部屋があったため、同



参加者の笑い声が響き、和やかな雰囲気。「オレンジカフェすみだ」(5月27日午後、墨田区向島で)

人たちがおしゃべりや情報交換をするほか、社会福祉士やケアマネジャーが参加者の相談に乗る。認知症と介護に関する講演などもあつた。同区の担当者は「ケアマネジャーらがいることで、症状の把握もできる。また、他人との交流で認知症の進行を遅らせることにつながってほしい」と話

す。区高齢者福祉課によると、区内の認知症高齢者数は、推計8990人(5月1日現在)。認知症の人や家族を支えるボランティアとして、厚生労働省が2005年に創設した認知症サポーターも9285人(3月末現在)いる。カフェは認知症の人や介護者の交流だけでなく、サポーターが積極的に活動できる場としての機能も期待されている。

カフェのスタッフでケアマネジャーの伊藤佳子さん(53)(同区在住)は、「認知症の人はもちろん、特に家族や支援者の人にも集ってもらつことで、より良い介護や支援に結びつくはず」と話している。